

令和4年度第1回沖縄県がん診療連携協議会 情報提供・相談支援部会議事要旨

日 時：令和4年5月19日（木）14：00～16：30

場 所：Web（Zoom）会議のため、各施設にて

出席者：14名

仲村渠美奈子（北部地区医師会病院）、玉城佐笑美（県立中部病院）、仲宗根恵美（那覇市立病院）、糸数真理子（那覇市立病院）、伊禮智則（那覇市立病院）、金城美奈子（県立宮古病院）、岩崎奈々子（県立八重山病院）、島袋百代（パンキャンジャパン沖縄アソシエイト）、冨里果林（南部医療センター・こども医療センター）、上原弘美（友愛医療センター）、小波津真紀子（沖縄県保健医療部）、増田昌人（琉球大学病院）、大久保礼子（琉球大学病院）、友利晃子（琉球大学病院）

欠席者：1名 樋口美智子（沖縄国際大学）

陪席者：2名 有賀拓郎（琉球大学病院）、石川千穂（琉球大学病院事務）

【報告事項】

1. 令和3年度第4回情報提供・相談支援部会議事要旨（令和4年2月24日）

資料1に基づき、委員より、令和3年度第4回沖縄県がん診療連携協議会情報提供・相談支援部会議事要旨について報告があり、承認された。

2. がん患者ゆんたく会（1～3月）

資料2-1～2-3に基づき、令和4年1月～3月に各拠点病院にて開催された、がん患者ゆんたく会について報告があった。中部病院は、コロナの影響で1月、2月は開催できず3月のみ開催。参加は少人数であったが、これまでの治療の経過、それに伴う気持ちを十分に語り合うことができた。那覇市立病院は、5月26日の再開に向けて準備中、対面での開催を予定している。琉球大学病院は3月～5月感染対策を講じながら対面で開催。参加者の数は変動しがちではあるが、対面だと参加数は少し増える。直接交流できるため参加者からは非常に好評であると報告された。パンキャンジャパン沖縄支部は、3月26日にオンラインで開催。県内外、また放射線科の医師と看護師の参加があった。すい臓がんが重粒子線治療の保険適応になったことで様々な質問が寄せられたことに対し、医師から丁寧な説明があり良い会となった。オンライン開催は県外からの参加希望者は多いが、県内の新規患者様がなかなか入ってこれないため、今後検討が必要。友愛医療センターは、昨年10月からオンラインで試験的に開催している。参加される方は比較的若い方に限定されてしまう印象があり、ハードルの高さを感じている。上原委員より、対面開催時の感染対策について質問があり、大久保委員から琉大病

院での対応として県のガイドラインを参考に人数制限、座席配置や仕切り、除菌などの対応をしていると回答された。

3.がん相談件数（1～3月）

資料 3-1～3-6 に基づき、令和 4 年 1 月～3 月の各拠点病院のがん相談件数について報告があった。

○北部地区医師会病院

4 月から担当が変わったため相談件数は少なめだが、外来の医師からの相談が増えてきており、対応できない場合も多少ある。

○県立中部病院

どの月も主な相談内容は不安・精神的苦痛と、ゲノム医療について多かった。2、3 月に妊孕性・生殖機能の外来への紹介の対応があったため、相談件数が増えたとのこと。

○那覇市立病院

前回報告と比較してのあまり大きな変化はなく、ほとんどが院内患者。院外からは 1 人のみ。紹介経路の 7 割以上が院内の担当医やスタッフであった。症状や副作用、後遺症の相談が多くなっており、専門看護師が、がん診療連携室に正式に配属され、がん相談支援センターと密に連携を取って対応できるようになったことから、こういった相談が増えてきたと考えられる。患者会について、早くサロンを再開してほしいとの声があった。

○県立宮古病院

コロナの状況下で 1 月から緩和の認定看護師が外来業務の応援にあたるため、面談・告知同席時にはがん相談員が対応することとし、3 月は相談支援センターでの件数が増加傾向。担当医や院内スタッフからの紹介が多く、どの月も症状や副作用、不安、精神的苦痛の相談が多かった。

○県立八重山病院

相談員 2 人体制だったが、4 月からは 1 人体制のため、件数が減少している。外来から入院まで対応している。全体としては、ゲノムの紹介が少しずつ増えている印象。

○琉球大学病院

2 月までは 1 人体制、3 月から 2 人体制で運用を開始することができている。電話相談は 3 月から増加傾向。セカンドオピニオンや、いろいろ治療前に意見を聞きたいという相談・問い合わせが増えている。その他 1-2 割ある。他院に通院中の方からの相談について、内容によっては通院先の相談窓口と相談支援の連携を行っていききたい。

その他、各病院の相談体制について情報交換が行われた。

○友愛医療センター

がん相談支援センターの立ち上げを予定しており、相談員は外科外来に配属とな

っており、相談内容によっては主治医にフィードバック、外来担当の MSW に繋ぐケースもある。また、もともとがんサポート外来の看護師が内科の患者さんをメインに支援しており、今後そちらとの連携も図りつつ、6月から院内に相談体制の公報をする予定。

○琉球大学病院

入退院支援部門・地域連携室部門・医療相談の機能を持つシエントと、がん相談を担うがん相談支援センターが別々にある。がん相談は相談員2人で対応しており、外来の患者さんをメインに関わっている。入院患者さんについては、シエントの退院支援看護師が対応している。外来から入院になった際はシエントへ引継ぎ、退院したらがん相談支援センターで引き継ぐ。様々な分野の専門看護師も多く、連絡すればすぐ対応する。相談支援センターの在籍ではないが、薬剤師へも採用薬の問い合わせなど適宜協力頂いている。また、定期的に相談支援センター連絡会議を開催しており、そこに参加しておられる先生方を中心に連携を取っている。

○那覇市立病院

医療支援部の中に、地域連携室、患者サポートセンター（入退院支援）、総合相談センター（医療福祉相談とがん相談支援センターが合わさった）、がん診療連携室の4つの部署がある。対応は相談員と、がん診療連携室に配属されている専門看護師と協働している。緩和ケア認定の看護師、WOCの看護師とも連携とりながら、相談業務にあたっている。

○県立中部病院

がん相談支援センター、地域連携室、入退院支援室、が1つのフロアにあり、互いに協力し合っている。がん相談支援センターには、専従がん相談員1人（副看護師長）、専任がん相談員1名（MSW）、兼任がん相談員1名（緩和ケア認定看護師）が在籍しています。依頼に応じて入院・外来問わず相談を受けている。専任相談員は、MSWのリーダー的な存在である。

○宮古病院

地域連携室に退院支援部門の相談員がおり、やや離れた場所に入院支援室、がん相談支援センターがある。がん相談支援センターは専従と専任が1人ずついるが、事務員が退職し専任が返書管理などの事務を担っているため、実質実働は専従1人となっている。告知同席は緩和の認定看護師が主に対応していたが、コロナ対応業務を担うことになったため、相談員が同席するようになった。患者からの連絡が、専従相談員と緩和ケア認定看護師のどちらに来ても良いように情報共有している。コロナ禍以前は大まかな区分けとして、告知同席は緩和の認定看護師（加算が取れるため）、済面や他の機関との連携であればがん相談員としていた。

○八重山病院

地域連携室の中に、退院支援と入院支援とがん相談室があり、退院支援の看護師が4

名、がん相談支援センターの中に相談員が1人と緩和の認定看護師が1人、入院支援室に看護師が3人、MSWが1人配置されている。入院患者については、退院支援看護師と2週間に一回のミーティングを開き、今後の方針や療養先の希望など情報共有している。

○北部地区医師会病院

地域連携室に事務員3名、前方連携2名、後方連携が6名、退院支援看護師が4名、緩和看護師1人。基本がん相談の担当は1人。緩和の看護師が外来患者との面談が多く、介護保険や社会福祉制度の調整が必要な時に相談員に声がかかる。入院患者については主に相談員が担当しているが、件数が多いため退院支援看護師と協力しながら支援している。

○南部医療センター・こども医療センター

成人の場合は、病棟ごとにMSWと退院調整の看護師が配置され対応している。外来では認定看護師が毎週木曜日成人の対応をしており、病棟の相談員と連携をとっている。小児科の場合はがん相談員が入院外来問わず対応。主治医・病棟の看護師、家族など連絡があれば適宜相談を受けている。

4. がん相談件数集計（令和3年度）

資料4(別紙)の通り、各拠点の相談件数集計の統計表に基づき報告があった。がん相談の拠点病院制度が始まったころに比べると圧倒的に外来患者さんの数、関わりが多くなっている。今後も各施設で相談件数データをまとめて、別紙のようにまとめ、比較等に使えるようにしていく。

5. がん相談支援センターの広報

資料5に基づき、がん相談支援センターの広報に関する報告があった。計4回の依頼中、3回掲載された。引き続き広報依頼を行う。

6. 地域統括相談支援センター活動報告

委員調整中のため、資料6に基づき大久保委員より代理報告と、新任の統括支援センター担当事務の紹介があった。がんピアサポーター養成講座が1月22日にオンラインで開催され、8名が受講した。相談を受ける上での心得、技術が学べるプログラムとなっている。オンラインゆんたく会と併用して、2月と3月にオンラインでのがんピアサロンが開催され、ヨガを実施した。ピアサポートに関する意見交換会が1月28日に開催され、ピアサポートの認知度や、確保、オンラインでのサロン開催の課題等が共有された。ピアサポーター派遣事業は、琉球大学病院でのゆんたく会、県内各拠点病院の患者サロンへの参加となっている。

7. 都道府県がん診療連携協議会 情報提供相談支援部会（令和4年4月5日）

資料7に基づき、大久保委員より代理報告があった。拠点病院の整備指針の変更が予定されており、厚生労働省への提案書を取りまとめて提出された内容が報告された。主に、緩和ケアと情報提供相談支援に関する機能の充実についての提案書、相談支援情報提供の機能の拡充・充実に関する提案書の2つ。一律に拠点病院が同じ機能ということではなく、県拠点・地域拠点の役割を分ける等、都道府県単位の役割として協議会がコーディネート機能を持つこと、多様化する相談に対して院内外連携を取りながら、病院としてしっかり体制として作る必要があるのではないかと、ということが盛り込まれている。厚生労働省で整備指針の検討会が引き続き持たれ、夏頃に整備指針が公表される見通し。

【協議事項】

1. 部会委員及び部会長の選定について

資料8に基づき、大久保委員より、これまでの委員選任の経緯説明があり、部会長・副部会長が任命された。

部会長 那覇市立病院 仲宗根恵美

副部会長 琉球大学病院 大久保礼子、 県立中部病院 玉城佐笑美

2. 指定要件及び現況調査報告項目の確認について

資料9に基づき、指定要件及び現況調査報告項目の確認が行われた。

3. 令和4年度部会計画

資料10-1の通り、令和4年度の活動計画が提案され承認された。

また、小児がん相談支援マニュアルについて、相談支援部会から小児・AYA部会に主体が移ったことが報告された。

資料10-2の通り、仲宗根委員より令和4年度第1回沖縄県がん相談員実務者研修会の開催企画について報告された。残り2回については、琉球大学病院10月ころ、中部病院2月までの開催を目指すこととなった。国立がん研究センターの認定がん専門相談員研修のⅢ群登録申請について大久保委員より解説があり、部会主催の研修はこれまで通りⅢ群登録を行うことが了承された。プレポスト・ポストテストの実施は廃止し、アンケート内に学習到達度を測る質問項目を追加する方向で検討することとなった。

4. その他

次回開催は7月7日(木)、14時から開催。